

◆「学習シート」を使用するにあたって◆

主体的な学習を成立させるためには、子どもたちに、話す力・聞く力を育てることが大切です。そのために、「話し方・聞き方チェックシート」「話し合いマニュアルシート」「発表名人10か条シート」を作成しました。どのシートも、子どもの発達段階を踏まえ、話し方、聞き方、話し合いの技能の系統性を意識し、中学年用と高学年用の2種類を作成しています※。相手のことを意識して話す、思考を働かせて話したり、聞いたりできるように工夫しています。

できれば学校として統一性のあるものを作成し、子どもたちに提示できるとよいでしょう。

これらのシートに載せている話型は、あくまでモデルであり、入門期の子どもたちへの一つの支援です。はじめは書かれている話型を使って発言していても、いずれは自分の言葉で話すことができるようにしていきたいものです。

活用の仕方

○話し方チェックシートと聞き方チェックシートを両面刷りにし、ラミネート加工して子どもたちに配布し、名前を書かせて「お道具箱」に入れておき、いつでも取り出して見られるようにしておく。

○拡大して、教室に掲示する。

などが考えられます。

提示の仕方

何のためにこのシートがあるのか、どのように活用するのかを、子どもたちに意味付けることが大切です。例えば、「はじめは、1週間、姿勢をよくすることからがんばってみましょう。」と、一つずつステップアップしていてもよいでしょう。

*** 話し方チェックシート ***

- みんなの方を向いて
- 大きな声で、最後まではっきりと
- **理由・根拠をはっきりさせて**
自分の経験から
友達の意見から
テキストから
(文章・さし絵・グラフなど)
- 分かりやすく、工夫して
ショー アンド テル
黒板や資料を使って
具体例をあげながら

5W1Hを意識して

い	つ
ど	こ
だ	れ
何	を
な	ぜ
どの	ように

順序を意識して

はじめに・まず
次に
そして
だから

「わたしは～だと思います。なぜかと言うと～だからです。」
「理由は○つあります。一つめは、二つめは、」
「○○さんの考えを聞いて、～だということが分かりました。」
「○○さんの考えもいいのですが、わたしは～だと思います。なぜなら・・・」

1年生から、繰り返し、自分の考えを相手に理解してもらうためには、**理由をあげることが大切**であることを学習しています。

(1年生の国語の教科書には、「わけを話そう」の教材で、「どうしてかという」とを使って理由を話す学習が設定されています。)

高学年では、**自分の経験、友だちの意見、テキスト(文章・さし絵・グラフなど)から理由・根拠をあげるとよい**ことに気付かせます。より客観的に根拠が示せるとよいでしょう。

理由・根拠が言えるように話型にも「なぜかと言うと」「理由は・・・」という言葉を入れています。

このほかにも・・・

○5W1Hは、話すときにも聞くときにも意識したい視点です。

○話すときには、1文を短く、順序立てて話すことが大切です。そのために、「はじめに」「次に」などの接続詞を使うとよいでしょう。

聞き方チェックシート

なるほど！

つまり

たとえば

なぜ？

- しせいをよくして
- 話している人の顔を見て
- 友達の考えを大切にしよう
うなずきながら
- **自分の考えと比べながら**
同じ・似ている・少し違う
〇〇は同じだけれど、〇〇が少し違う
- **自分の立場をはっきりさせながら**
賛成・反対 なっとく
ここが分からない くわしく知りたい
- **友達のすばらしいところを**
見つけながら



『なるほど、～なのだな。』

『なぜ、そう考えたのかな。』

『つまり、～ということだな。』

『たとえば、どんなことかな。』

『〇〇については分かったけれど、〇〇についてもう一度ききたいな』

しっかりと最後まで聞くことが大切です。

友だちの話を聞くことで、自分の考えが広がったり、深まったりすることを子どもたちに実感させたいものです。

また、相手の考えを聞くことが、相手を大事にすることにつながることを話していきたいものです。

思考を働かせて聞く

比 較

自分の考えと比べます。

同じ、似ている、違う

考えは同じだけれど、理由が違う。

この部分は同じだけれど、ここは違う。

帰納的な思考

具体的な事物 具体的な事物 具体的な事物

つまり

一般化された事象
定理・法則

演繹的な思考

一般化された事象
定理・法則

たとえば

具体的な事物

たとえば

具体的な事物

たとえば

具体的な事物

「つまり」と「たとえば」の言葉を大切に指導していきたいものです。

学習シートを持たせたら、すぐに話し方、聞き方がきちんとできるわけではありません。指示を出したら、教師も意識して「させる」ことが大切です。上手にできている子どもをほめる。がんばりを意味付ける。できていない場合は指導する。これらのことが大切です。根気よく指導して子ども一人一人に力を付けていきましょう。

※ 中学年用は、学習指導要領の国語、第1学年及び第2学年、第3学年及び第4学年の「A 話すこと・聞くこと」の(2)内容の①指導事項を基に作成しました。高学年用は、第1学年及び第2学年、第3学年及び第4学年、第5学年及び第6学年の「A 話すこと・聞くこと」の(2)内容の①指導事項を基に作成しました。